

ものづくり UD を活用した新事業への展開

－丸美屋の UD に対する現状の取り組みと今後の展開について－

- 権藤 和修、上村 和也、芥川 浩志（株式会社 丸美屋）
原口 隆一、（熊本県産業技術センター・情報デザイン部）

－開発背景－

平成 14 年に出されましたユニバーサルデザイン（以下 UD と表記）進行指針の中で熊本県は「だれもが暮らしやすく豊かなくまもと」の実現を目指しており、基本構想として「まちづくり」、「ものづくり」、「情報・サービスづくり」の 3 分野の展開を打ち出しております。

弊社は「地球に優しくおいしさ一筋健康に奉仕する」を経営理念に掲げ、地球環境にやさしい、高品質かつ安全安心な商品を提供し、お客様の健康に貢献できるよう努力を行って来ましたが、新たな課題として「人にやさしい商品づくりとは？」というキーワードを元にして検討を進めた結果、急速に進行している少子高齢化や、それに伴うニーズの多様化に対応した商品開発が望まれると考えられ、包括的な扱いやすいデザインとして UD を取り入れることとなり、「人にやさしい商品づくり」への取り組みに着手しました。

そこで本発表では、弊社の「ものづくり」分野での開発事例を 2 題ご紹介します。

－開発事例 1：「キッズ専科」－

○「キッズ専科」の概要

子供を取り巻く環境は年々悪化しており、食に関しても言えることで、血中コレステロールの上昇や糖尿病など生活習慣病を心配しなくてはならない深刻な状況に直面しております。そこで食糧産業クラスター事業を利用して子供用機能性納豆の開発を試みました。

少子化によって「子供にだけはよいものを」という願いの親御さんは多く、安全安心な商品として「キッズ専科」を開発しました。

なお本商品は、子ども用として開発しましたが、誰でも使い易く食べ易い味としていますから、老若男女を問わず手軽に日々の食事で栄養補給ができるよう設定しております。



図 1. 「キッズ専科」の商品画像

○「キッズ専科」の特徴

- ・切り離しが容易
- ・開けやすいように大き目のつまみ
- ・個々に特徴を持たせているため、判別が可能
- ・絵は大きく、色分けして見やすいように工夫
- ・漢字にはルビをふっている
- ・タレに粘性を持たせ、飛び散りを防止
- ・紙ホルダーおよび環境調和型インク（UV インク）の採用
- ・九州産小粒大豆「すずおとめ」使用
- ・機能性タレを添付

—開発事例2：「妙解寺納豆」—

○「妙解寺納豆」の概要

「妙解寺納豆（みょうげじなっとう）」とは肥後藩初代藩主：細川忠利公の院号である妙解院にちなんで建立された細川家の菩提寺である妙解寺（現在の北岡自然公園）にて作られていた寺納豆のことです。寺納豆とは寺院の納所で作られていたことからそう呼ばれており、糸を引かない塩辛納豆のことを指します。

弊社ではその「妙解寺納豆」の復刻を行っており、その開発状況について報告します。

○「妙解寺納豆」の開発体制

現在、熊本県の補助事業である「ものづくり UD 新事業創出事業」の一環で開発を実施しており、熊本県産業技術センター・各部署を始め県内企業・

原料農家の協力を頂いております（図2参照）。

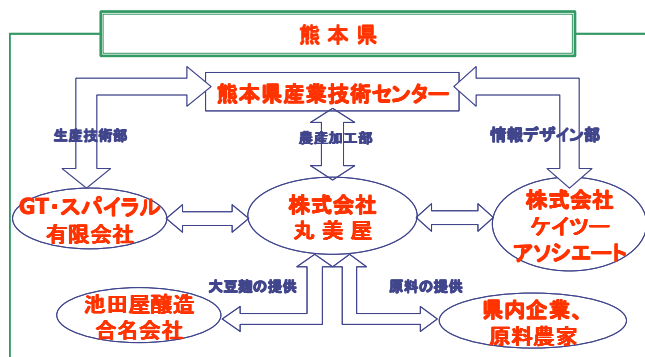


図2. 「妙解寺納豆」の開発体制

○「妙解寺納豆」のUD性

熊本県産業技術センター・情報デザイン部とケイツーアソシエート社の協力を得て、開閉や持ち運びの面など扱いやすいものを設計中です。

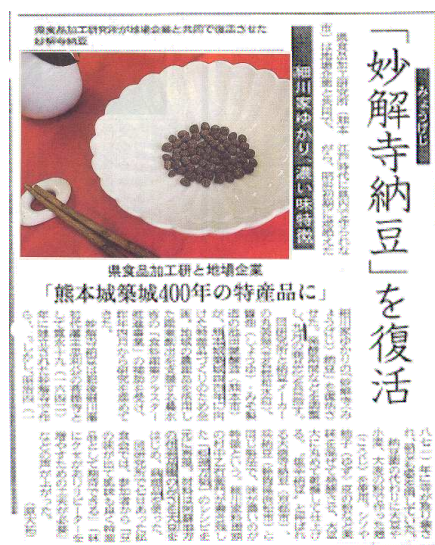


図3. 「妙解寺納豆」の取材記事

問合せ先

株式会社 丸美屋

研究開発課 権藤和修

E-mail:1011@marumiya-g.co.jp